



松田区鍾乳洞観光協会

自然のままの鍾乳洞は、皆に愛される飾らない松田そのもの

水汲み、洗濯、お風呂など生活に欠かせない場であったメーガー洞(鍾乳洞)は古くから地域住民に大切にされてきたが、降雨時に土砂が流れ込み堆積していくという問題を抱えていた。「何とか整備できないものか、そして、せつ

かくなら村の貴重な観光資源としても活用できないか。」そんな発想から、区で鍾乳洞観光協会を設立。ガイドの養成やツアーコースの設定、ガイドブック作成に乗り出すこととなった。

散策ツアーのガイドはみんな、地元LOVE



自然のままを残す鍾乳洞でライトの灯りを頼りに探検!

メーガー洞は、2012年頃から観光としての活用が始まり「自然のままの鍾乳洞」として徐々に口コミで広がって

いき、コロナ禍前までは年間1,000名ほどの散策ツアー参加者を抱えるまでになっていた。

現在、ガイドとして登録しているのは地元愛に溢れる10名程の面々。新規の募集には苦勞しているが、興味のある人を見つけては一本釣り!の作戦で、なんとか確保ができています。ツアー立ち上げ時には、皆で集まって月1回の勉強会を行い、マニュアルを作成し案内の手順を整理していたが、今ではそれぞれがいい具合に個性を発揮しており(笑)、プロではないからこそその味のあるガイドを行っている。高齢のガイドは「訛っていたらごめんね～」と愛敬たっぷり、商売っ気は感じられない。楽しんでやっているからこそその大らかな雰囲気がある。

専門家が次々繋がる人脈がスゴイ!

ガイドブック作成の際に、人文地理学の専門家に地域資源の掘り起こし調査を依頼したところ「他の分野の専門家も紹介するよ。」と、その場で連絡を取ってくれ、洞窟学や動植物学、人文社会学等の専門家へと次々繋がり、瞬く間に専門家チームが結成された。このように人脈を引き寄せる不思議なチカラが、松田にはあるようで…。現在

もチームは継続されており、分からないことが出てきたら都度連絡を取り合っているそうだ。

専門家の調査によって、他ではなかなか見ることのできない光鍾乳石群の発見もあった。それは、鍾乳石に付着するバクテリアの影響で光の方向に曲がっていくという現象で、通常同じ方向に向かうのだが、松田のそれは、水に

カテゴリー	地域の魅力発見／観光・地域交流		
住所	国頭郡宜野座村松田78		
電話番号	098-989-8100	設立	2013年
主な活動	鍾乳洞や集落の観光案内、ガイド養成等		
利用施策	地域づくりイノベーション事業(R1~2年度)		

光が反射し様々な方向に伸びている。村の中で長年静かに眠っていた“タカラ”が今まさに芽を出そうとしている。

琉大生による高齢者への聞き取り調査では、「藍壺」というものの存在が明らかになった。藍染の染料を入れておく水槽のようなものだが、村史等の文献を探しても、松田で藍染めがされていた記述はどこにもなく、これまたスゴイ発見！現在も調査が進められている。

その道の専門家が次々に引き寄せられ、集結している集落が他にあるだろうか。そしてこれまで公にならずに、ひっそりと息づいていた貴重な文化財や資源の数々。松田に秘められたとてつもないパワーを感じずにはられない。



集落の大切な水場であったメーガー洞。現在は御嶽として拝まれている。

奮闘する2人の集落支援員

この協会には、2人の集落支援員が常駐している。好奇心旺盛なパワフル女子と、松田で生まれ育ち松田をこよなく愛する男子。対局なようで、とてもバランスのとれたコンビである。鍾乳洞を中心とした観光事業に日々奮闘しているが、今後を見据え、より安定的な自主財源の確保にも手をつけ始めた。

エコツーリズム推進のため大人数での受け入れは難しく、どうしても個人向けの案内になるが、草編み体験やキャンプ場での宿泊を交えたプログラムも検討中。恵まれた観光資源だけに頼らない独自の取り組みにも力を入れていきたいと考えている。

月1で通う松田ファンの存在も

いい意味で欲がなく、利があれば皆で分け合う、そんな風土の松田に引き寄せられるのは専門家だけではないようで、月に1度、環境整備の作業に欠かさず参加してくれる琉大生の「松田ファン」もいる。同学生日く、松田の魅力は「何もないところ。でも1度来ると、また来たくなくなっ

う。」なんだとか。

集落外からの温かな人脈にも支えられ、これからも集落の末永い存続と、どこにもない魅力を活かした地域づくりの両立に向けて、同協会のチャレンジは続いていく。